

國學院大學學術情報リポジトリ

第122巻総目録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/710

第122巻総目録

〔分類索引〕

総記

図書館・図書館学

明治期の地方改良運動を推進した内務省官吏の図書館認識

—井上友一、水野鍊太郎、田子一民を中心に— 新 藤 透 122-5

博物館

松浦武四郎明治十二年の旅 —好古家とのネットワークをめぐって—

内 川 隆 志 122-12

哲学

哲学各論

An Assessment of the Philosophical Theories of Perception and the Issues the
Direct Perception Theory Needs to Address 金 杉 武 司 122-4

東洋思想

『漢書』古今人表の「表」としての効果と制作意図

—『論語』及び律曆志・藝文志との関係を中心に— 長谷川 清 貴 122-7

西洋哲学

An Assessment of the Philosophical Theories of Perception and the Issues the
Direct Perception Theory Needs to Address 金 杉 武 司 122-4

宗教

神道

諏訪明神縁起における聖徳太子伝の受容と展開

—『諏方大明神講式』を中心に— 間 枝 遼太郎 122-5

神社管理における御祭神・社名の取り扱いについての一考察

—近代以降の制度変遷と伝語を用いた神名・社名を中心に—
藤 本 頼 生 122-6

神社年中行事の形成背景 —節日神事を中心に— 鈴 木 聡 子 122-10

仏教

諏訪明神縁起における聖徳太子伝の受容と展開

—『諏方大明神講式』を中心に— 間 枝 遼太郎 122-5

境野黄洋の仏教史研究とその思想的背景 エリック・シッケタンツ 122-5

- 中世後期における天皇主宰仏事の展開 —正月三仏事を中心に—
(特集 國學院中世史研究の現在) 久水俊和 122-11
羽賀寺年中行事の関心
(特集 國學院中世史研究の現在) 横田光雄 122-11

歴史

世界史・文化史

- 『盲者たちの舞踏』(Danse aux Aveugels)における「牛に跨る死」をめぐって
—中世後期における死の受容— 小池寿子 122-3

日本史

[古代]

- 『日本書紀』現行訓読文にも見られた、
「むとす」の上の「たまふ」と下の「たまふ」と 中村幸弘 122-3
日本古代における穀断ち行の受容と変容
(特集 國學院中世史研究の現在) 太田直之 122-11

[中古]

- 神社年中行事の形成背景—節日神事を中心に— 鈴木聡子 122-10
[中世]
後醍醐天皇を支えた廷臣—岡崎範国について—
(特集 國學院中世史研究の現在) 野村朋弘 122-11

- 中世後期における天皇主宰仏事の展開—正月三仏事を中心に—
(特集 國學院中世史研究の現在) 久水俊和 122-11
久我晴通(宗入)をめぐる諸問題
(特集 國學院中世史研究の現在) 岡野友彦 122-11

- 秀吉期における新しい茶会様式—吸茶の導入とその意義—
(特集 國學院中世史研究の現在) 竹本千鶴 122-11
豊臣秀吉の唐冠と子息秀頼
(特集 國學院中世史研究の現在) 遠藤珠紀 122-11

- 武蔵国稲毛荘・丸子荘の治水と灌漑
(特集 國學院中世史研究の現在) 菱沼一憲 122-11
室町期東国の公家領
(特集 國學院中世史研究の現在) 杉山一弥 122-11

- 室町期荘園における寺社と地下 —若狭国太良荘の事例から—
(特集 國學院中世史研究の現在) 窪田涼子 122-11
室町時代における東大寺領清澄荘の経営について
—「清澄荘近年日記」を中心に—
(特集 國學院中世史研究の現在) 畠山聡 122-11

主君と城を交換するということ

- 小泉・沼尻合戦における由良・長尾家中の動向—
 (特集 國學院中世史研究の現在) 篠 瀬 大 輔 122-11
- 鎌倉幕府権力者の死去と触穢
 (特集 國學院中世史研究の現在) 森 幸 夫 122-11
- 中世神社史研究史稿
 (特集 國學院中世史研究の現在) 比 企 貴 之 122-11
- 起請文の罰 —神文の罰から牛玉の罰へ—
 (特集 國學院中世史研究の現在) 大河内 千 恵 122-11
- 賀茂別雷神社と最長寿寺
 (特集 國學院中世史研究の現在) 金 子 拓 122-11
- 『鎌倉遺文』にみる武器・武具・兵具・兵仗
 (特集 國學院中世史研究の現在) 近 藤 好 和 122-11
- 藤原兼仲『勘仲記』を観る
 (特集 國學院中世史研究の現在) 高 橋 秀 樹 122-11
- 「建武式目」の評価をめぐって
 (特集 國學院中世史研究の現在) 長 又 高 夫 122-11
- 年代記にみる中世南九州の災害 —災害研究における年代記試論—
 (特集 國學院中世史研究の現在) 水 野 嶺 122-11
- 羽賀寺年中行事の関心
 (特集 國學院中世史研究の現在) 横 田 光 雄 122-11
- 天正十六年七月八日付秀吉朱印状二種の公布状況
 —「刀狩令」「海賊停止令」の作成過程とその目的—
 (特集 國學院中世史研究の現在) 矢 部 健太郎 122-11
- [近世]
- 佐渡金銀山への水上輪導入と水学宗甫
 豊臣秀吉の唐冠と子息秀頼
 (特集 國學院中世史研究の現在) 橋 本 賢 一 122-4
- 起請文の罰 —神文の罰から牛玉の罰へ—
 (特集 國學院中世史研究の現在) 遠 藤 珠 紀 122-11
- [近代以後]
- 戦後日本のコンプ業
 海事博物館の研究と分類に係る一考察
 日清・日露戦間期における「海軍大学の父」坂本俊篤の教育改革
 神 長 英 輔 122-1
 二 葉 俊 弥 122-2
 山 口 昌 也 122-3

神社管理における御祭神・社名の取り扱いについての一考察

—近代以降の制度変遷と伝語を用いた神名・社名を中心に—

藤本 頼生 122-6

中世神社史研究史稿

(特集 『日本書紀』研究の現在と未来)

比企 貴之 122-11

アジア史・東洋史

戦後日本のコンプ業

神長 英輔 122-1

唐代の藩鎮と祠廟

江川 式部 122-2

唐帝の譲位時における改元について

—玄宗はなぜ二月に開元と改元したのか—

金子 修一 122-6

『漢書』古今人表の「表」としての効果と制作意図

—『論語』及び律曆志・藝文志との関係を中心に—

長谷川 清貴 122-7

社会科学

法律

神社管理における御祭神・社名の取り扱いについての一考察

—近代以降の制度変遷と伝語を用いた神名・社名を中心に—

藤本 頼生 122-6

教育

日清・日露戦間期における「海軍大学の父」坂本俊篤の教育改革

山口 昌也 122-3

日本語教育における「は」と「が」

菊地 康人 122-10

ITリテラシー教育における専門用語

—高等学校「情報」科目の教科書を用いた分析—

舟本 正太郎 122-12

風俗習慣・民俗学・民族学

佐渡金銀山への水上輪導入と水学宗甫

橋本 賢一 122-4

佐渡のイカ釣り漁撈における天文民俗

中野 真備 122-7

国防・軍事

日清・日露戦間期における「海軍大学の父」坂本俊篤の教育改革

山口 昌也 122-3

天文学・宇宙科学

佐渡のイカ釣り漁撈における天文民俗

中野 真備 122-7

産業

水産業

戦後日本のコンプ業

神長 英輔 122-1

佐渡のイカ釣り漁撈における天文民俗

中野 真備 122-7

芸術・美術

絵画・書道

- 『盲者たちの舞踏』(Danse aux Aveugels)における「牛に跨る死」をめぐる
 —中世後期における死の受容— 小池 寿子 122-3
 平仮名の字源と草書 中山 陽介 122-9
 「石山寺縁起絵巻」巻四『源氏物語』起筆場面のふたつの月考
 —一画中画屏風の細月と湖面の満月— 斎藤 菜穂子 122-10

諸芸・娯楽

- 秀吉期における新しい茶会様式 —吸茶の導入とその意義—
 (特集 國學院中世史研究の現在) 竹本 千鶴 122-11

言語

日本語

- 外来語と漢語の結合によるサ変複合動詞の形態論的考察
 北澤 尚/中西 真桜 122-1
 『玉塵抄』の疑問表現 —「か・ぞ・やら」の用法— 山田 潔 122-2
 『日本書紀』現行訓読文にも見られた、
 「むとす」の上の「たまふ」と下の「たまふ」と 中村 幸弘 122-3
 現代中国語における字順の逆転する二字漢語「AB-BA」の語彙的性質
 —現代日本語に「AB」のみある例との比較— 馬 雲 122-3
 ムトスとムズ —現実・非現実の観点から— 三宅 清 122-4
 中古和文の終助詞・間投助詞「や」 富岡 宏太 122-7
 平仮名の字源と草書 中山 陽介 122-9
 国語動詞の抽象語義化現象略史 —何がこのような語義を派生させるのか—
 中村 幸弘 122-9
 日本語教育における「は」と「が」 菊地 康人 122-10
 ITリテラシー教育における専門用語
 —高等学校「情報」科目の教科書を用いた分析— 舟本 正太郎 122-12

中国語・その他の東洋の諸言語

- 現代中国語における字順の逆転する二字漢語「AB-BA」の語彙的性質
 —現代日本語に「AB」のみある例との比較— 馬 雲 122-3

文学

日本文学

諏訪明神縁起における聖徳太子伝の受容と展開

—『諏方大明神講式』を中心に—

間 枝 遼太郎 122-5

詩歌

[古代]

有間皇子の「挽歌」と田横の故事 —挽歌の「歌の意」と部立の構想—

土 佐 秀 里 122-5

住吉の波豆麻の君が馬乗衣（『万葉集』巻七の一二七三）

上 野 誠 122-9

[中世]

『勅撰作者部類』の元資料について —勅撰集入集注記の考察—

スピアーズ・スコット 122-8

[近世]

佐渡金銀山への水上輪導入と水学宗甫

橋 本 賢 一 122-4

小説・物語

[古代]

『日本霊異記』における説話叙述の方法 —『冥報記』との比較から—

霧 林 宏 道 122-1

『日本書紀』現行訓読文にも見られた、

「むとす」の上の「たまふ」と下の「たまふ」と

中 村 幸 弘 122-3

[中古]

『源氏物語』「つぶつぶと」考

吉 海 直 人 122-6

『源氏物語』桐壺巻の左大臣は何歳なのか？

—物語の「本性」に関する考察—

山 田 利 博 122-8

「石山寺縁起絵巻」巻四『源氏物語』起筆場面のふたつの月考

—画中国画屏風の細月と湖面の満月—

斎 藤 菜穂子 122-10

供花する紫の上 —『源氏物語』「胡蝶」巻の春秋争い—

亀 谷 粧 子 122-10

常陸の宮の晩年の姫君 —末摘花の人物設定と物語表現—

塚 原 明 弘 122-12

[近代以後]

齋藤緑雨「かくれんぼ」論 —〈芝居〉という装置— 齋 藤 樹 里 122-2

自分ひとりのチャット部屋 —二〇年後に再読する綿矢りさ『インストール』—

スペッキオ・アンナ 122-4

作品集

[古代]

文章と「経国」 —勅撰漢詩文集の編纂からみる平安朝漢文学の展開—
楽 曲 122-8

漢詩文・日本漢文学

[古代]

文章と「経国」 —勅撰漢詩文集の編纂からみる平安朝漢文学の展開—
楽 曲 122-8

中国文学・その他の東洋文学

有間皇子の「挽歌」と田横の故事 —挽歌の「歌の意」と部立の構想—
土佐秀里 122-5

フランス文学

『盲者たちの舞踏』(Danse aux Aveugels)における「牛に跨る死」をめぐる
—中世後期における死の受容—
小池寿子 122-3

研究ノート

森鷗外『舞姫』考 —語りの視点と過去の助動詞とを中心—
小川貴也 122-7

資料紹介

大正三年國學院大學振武館開館記念メダルについて
—明治四十年～大正九年大学徽章の発見—
倉橋真司 122-6

書評

坂本薫著『神奈川県の方言アクセント—小田原から横須賀まで—』
那須昭夫 122-1

楠原彰著『野の詩人 真壁仁 その表現と生活と実践と』
加藤種男 122-4

斎藤達哉著『国語仮名表記史の研究』
銭谷真人 122-8

薛静著『近代日本語教科書における謙讓表現』
伊藤孝行 122-9

種稲秀司著『幣原喜重郎(人物叢書)』
西田敏宏 122-10

牧野格子著『謝冰心とアメリカ』
宮本めぐみ 122-12

紹介

土屋昌明・鈴木一誌編著『ドキュメンタリー作家 王兵 現代中国の叛史』
牧野格子 122-2

上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編『万葉集の基礎知識』

荒 木 優 也 122-12

談話室

虫と仲良く	野 呂 健	122-1
イソップに学ぶ昔話研究	花 部 英 雄	122-2
消えない思い出—生月島と三体様	茂 木 栄	122-3
感染症の歴史と道德教育	澤 田 浩 一	122-4
サフラジェットとその末裔たち	上石田 麗 子	122-5
「電話」と「死者」	大 道 晴 香	122-6
首都圏のことばの地理的分布と動向を探る	三 井 はるみ	122-7
万葉集を楽しむ	辰 巳 正 明	122-8
自分にカスタマイズされた世界と「他なるもの」への恐怖心	金 杉 武 司	122-9
ギンズバーグとその時代	浅 井 理恵子	122-10
「カサンボコ」と「デギョウ」 子育てと民俗学	服 部 比呂美	122-12